

所長あいさつ

報道する側に多様な人材がいることが求められる時代になりました。ジェンダー平等を活動の柱の一つに据えたメディア総合研究所では、報道組織におけるジェンダー平等について注視しています。メディアを巡る環境が大きな転換期にある今日、改めて表現の自由と人権の重要性を訴えていく必要性を感じています。何をすくい上げ、どのように伝えていくべきか、会員の皆様と共に考え行動していきます。



メディア総合研究所所長
谷岡 理香

メディア総合研究所には、以下の方々が参加しています。
石井彰(放送作家) 岩崎貞明(放送レポート編集長)
小田桐誠(ジャーナリスト) 岸田花子(民放労連委員長)
小玉美意子(武蔵大学名誉教授) 笹田佳宏(日本大学教授)
砂川浩慶(立教大学教授) 臺宏士(ジャーナリスト)
松元ちえ(ジャーナリスト) 山田健太(専修大学教授)
吉永磨美(元新聞労連委員長) 吉原功(明治学院大学名誉教授)
ほか

募 集

○維持会員を募集しています

メディア総合研究所は、会員・維持会員の会費(年会費1口1万円)で運営されている非営利の団体です。研究所の目的に賛同し、活動を支援くださる方々(維持会員)のご協力が欠かせません。ぜひ入会をご検討ください。

●維持会員の特典

1. 公表されている資料を中心に集めた「メディア関連資料」(年2回発行)をデータで配布します
2. 雑誌『放送レポート』(隔月刊・年6回発行)をお届けします
3. 研究所主催の研究会・シンポジウムに無料で参加できます



連 絡 先

メディア総合研究所

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6-5 木原ビル2F
TEL. 03-3226-0621 FAX. 03-5361-8225
e-mail mail@mediasoken.org
<http://www.mediasoken.org/>

メディア総合研究所

Media Research Institute

放送を中心としたメディアを
検証し、記録する

メディアで働く人、メディアを志す人、
メディア教育に携わる人に
情報を提供する

放送局や新聞社などの報道機関は、民主主義社会にあって国民に代わり公権力をチェックするという重要な役割を担っています。より良い報道がより良い民主主義社会の発達に資すると考え、視聴者や読者とともにメディアについての研究活動をしていきます。



活動の柱

○国際人権

国際的視点に立つと、日本は人々の人権が守られている国とは言えません。国際人権という視点からメディア研究とシンポジウム開催等の活動を進めます。

○表現の自由

民主主義社会にとって重要な人権の一つに表現の自由があります。政府や政治によるメディアへの圧力に対して、『放送レポート』での特集記事や声明、シンポジウム等を通じて異議を唱えてきました。また、大手メディアでは伝えられることの少ない「表現の自由」についても考えています。「表現の不自由展」もその一つで、各地での開催をサポート。国民の知る権利に資する研究を進めています。



表現の不自由展東京2022

○ジェンダー

日本社会のあらゆるところでいまだに性別役割分業意識が根付いており、メディア産業も例外ではありません。多様な報道のあり方を考えるために、メディア組織のジェンダーバランスや、報道内容を批判的に考察します。

活動内容

1.研究プロジェクト

「ジェンダーとメディア」「ローカル放送」「独立行政委員会を考える」などをテーマに、メディア総研の研究員や外部の研究者による調査・研究活動を行っています。

2.公開研究会・シンポジウム

時事的なテーマを取り上げる公開研究会や、研究プロジェクトの成果を公表し、議論を深める公開シンポジウムなどを随時開催しています。

研究会「記者会見が名誉棄損になる？」
(2023年7月)

連続研究会「男性学入門講座」
(2022年～2023年)

「使える国際人権 いまメディアが知るべきこと」
(2022年12月)

「もう、変えよう『オトコ』目線のメディア」
(2021年2月)

3.声明・アピール

報道・取材の自由、表現の自由への侵害が懸念される事態の発生に対しては随時、声明や見解、アピールを公表して社会に問題提起をしています。

▽「表現の不自由展 東京2022」の開催にあたって
(2022年4月)

▽旭川医大・北海道警の行き過ぎた法執行に抗議し、道新に経緯の再調査と記者を守る施策の提示を求める見解(2021年7月)

▽ミャンマーで拘束されたジャーナリスト北角裕樹さんの即時解放を求める(2021年4月)

4.『放送レポート』などの出版

放送をはじめとするメディアの現場と視聴者・読者を結ぶ雑誌『放送レポート』(隔月刊)を編集・発行しています。

『放送レポート』

『放送レポート』は、メディアの裏側の真実を伝え、メディアの現場で働く人々、ジャーナリスト、市民、メディア研究者などの相互交流をめざす雑誌です。1972年に創刊され、このほど50周年を迎えました。メディア・ジャーナリズムの問題をテーマにした特集の他、月刊誌『世界』で連載されていた「メディア批評」や、各地の放送局が制作したドキュメンタリー番組の台本掲載など、各種の連載も好評をいただいています。



*「note」でもご覧いただけます

『放送レポート』の記事の一部は、ウェブサービス「note」でもご覧いただけます。「MediaReport」というアカウントです。右のQRコードを読み込めば、どなたでも無料で全文読めます(一部記事は有料)。お気に入りでしたら、サポートボタンで「投げ銭」もできます。アカウントのフォローもぜひお願いいたします。

